



# 令和7年度 学校評価 号

令和8年3月13日

1年間の教育活動の振り返りを行いました。部会で成果や課題を話し合い、次年度に向けて改善策を検討しました。学校報告会を书面報告とさせていただきます。

学校教育目標	今年度(令和7年度)の重点目標
自分をつくる子 かかわりあう子 住む町を大切にす子	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童指導・支援の充実を図る【褒めて、寄り添う児童支援】</li> <li>確かな学力の育成をする【あたたかな聴き方・やさしい話し方 ステップ3】</li> <li>豊かな社会性と心の育成をする【自己肯定感・自己有用感を高める】</li> <li>安全安心な学校生活と開かれた学校の創造【防災教育・情報発信の強化】</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童指導・支援の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>全校児童を対象とした「心のアンケート」を実施し、それに基づいた「児童との面談」を実施した。</li> <li>「久本小スタンダード」の周知と見直し、必要に応じて加筆訂正を行う。教室内ルールについても学年や学校全体で随時確認をして、定着できるようにした。</li> <li>教室内の整理整頓、刺激の少ない環境作り等について学校全体で統一して取り組んだ。</li> <li>すべての子ども達が安心して学校生活が送れるように、より安心して過ごせる別室等の場を整えた。</li> <li>児童への適切な支援について、管理職、担任、通級担当者、CO等と情報交換や授業参観を丁寧に行った。</li> <li>保護者との面談を重ね、丁寧な関係づくりをし、サポート体制を整えた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心のアンケート」を通して、いじめや学校生活についての実態把握を行った。結果を元に担任との面談や学年での聞き取りを丁寧に行い、児童支援部会でも情報を共有した。</li> <li>いじめに関わる(又はいじめにつながる)事案が発生した時には、迅速に「いじめ防止対策委員会」を開き、関係職員で対策について話し合い、解決に向けての支援を行った。</li> <li>いじめを自分事として捉えることができるように、外部講師による「いじめ防止教室」(中・高学年)「情報モラル教室」(高学年)を実施した。</li> <li>学校全体で情報を共有することで、教職員の問題意識や未然防止の感覚を高めることができた。</li> <li>保護者の思いや主訴を丁寧に関き取りながら、学校での児童の実態についても理解が得られるように伝えた。管理職、担任、学年、COを中心に、支援方針を決め、校内委員会等で意見交換をしながら、丁寧な保護者対応と児童へのサポート体制を整えた。</li> <li>外部機関との連携を密に行った。必要に応じて、通級指導教室や総合教育センター等の相談機関を紹介した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営方針「豊かな心の教育の推進」のために、今後も「あたたかな聞き方」「やさしい話し方」に取り組む。</li> <li>クラスの中で一人ひとりの個性や良さを認め、対話をしたり協力し合ったりする集団づくりを心がける。</li> <li>学校生活をより良くするために、児童が自主的・主体的に行動できる力をつける。特別活動の充実を図る。</li> <li>教室で学ぶことが苦手な児童については、サポートできる教室の継続を行う。その教室での運営について、教職員の連携、情報共有を丁寧に行っていく。</li> <li>保護者が児童の実態について受け止められるように丁寧に対応し、保護者と学校との信頼関係を作りながら、共に適切な支援ができるようにしていく。</li> <li>トラブルやいじめに対しては、迅速な対応を取ると共に、学校全体で情報を共有し、継続的な支援と見守りを行う体制を確かなものとする。いじめられたと感じる児童の気持ちに寄り添い、チームで対応していく。低学年の時から、いじめを許さない心と雰囲気を作り育てていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>わかる授業・楽しい授業・関わり合う 授業を展開し、実践する。</li> <li>校内研究を軸に授業力向上に向けた取組を行う。</li> <li>あたたかな聴き方・やさしい話し方の取組</li> <li>GIGAスクリーン構想の推進をする。</li> <li>キャリア在り方生き方教育の推進をする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう！なるほど！楽しいね！」を研究テーマとし、国語科を通して児童同士の学び合いの中で高め合う姿を目ざしてきた。ペアやグループ、全体交流など児童同士がかかわり合いながら学ぶ場を多く設定することで、自分の考えに自信をもつ児童も増え、積極的に学習に向かう姿が見られた。</li> <li>「あたたかな聴き方、やさしい話し方」の姿を提示し、学年相当とする姿を明確にして目指してきた。話し合いの場で話し手を見たり、反応を返したり、相手意識をもって取り組む児童が増えた。聞き手の環境づくりを進めながら、相手を意識して話せるように話し手の技能を高められるように指導を続けていく。</li> <li>GIGA端末を活用し、学年で教材の開発や授業展開を工夫していることから、児童の学習意欲の高まりが感じられた。またGIGA端末の活用や紙媒体の活用など、取捨選択することで児童の学びにあった学習形態をつくることができた。</li> <li>キャリア在り方生き方教育を進め、ゲストティーチャーと共に、児童がやってみようことの実現をめざして、多くの体験活動に挑戦する姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流することが目的になるのではなく、児童の学びの広がり深まりが生まれる手段と捉え、授業展開を考えていく。</li> <li>より主体的に児童が学習できるように、個別最適な学びまたは協働的な学びに向けての振り返りを行い、授業改善に努めていく。</li> <li>児童が話しくなるような雰囲気をつくるために、あたたかな聴き方、やさしい話し方をしているよい姿を価値づけ、手立てを共有していく。</li> <li>GIGA端末は積極的に活用できており、みんなの考えを知ることができて終わらず、交流の手立てとして、そこからさらに自分の考えを表現することができるように授業展開や教材の開発を行っていく。</li> <li>キャリア在り方生き方教育を進め、ゲストティーチャーと共に、児童がやってみようことの実現をめざして、より体験活動を充実させることできるように、カリキュラムマネジメントを行い、計画を見直すようにしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな社会性と心の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のよさや、他者のよさを認め合う姿</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年児童と相談しながら発表内容を考えられた。保護者や地域の方に見てもらい機会を設けられたことで自己肯定感の高まりにつながった。高学年は委員会活動で70周年を祝うイベントを考え、実践する中で、運営側も参加側の愛校心を高められた。</li> <li>上級生が下級生に寄り添いながら企画・運営する姿が見られた。</li> <li>クイズを交えたり、遊びの要素を交えたりしながら進行する児童の姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周年行事で作成したスローガンやマスコットキャラクター等を今後も積極的に活用し、学校の特色として定着させていきたい。</li> <li>異学年交流では遊びだけではなく、学習と関連させた関わりも多く見られるようになってきた。これを広げていきたい。</li> <li>集会活動では、同日に活動を行いたい委員会が多く、調整が必要になった。年間を通して計画的に進めるとともに、緊急で入れる余力を残して設定していく。</li> <li>委員会活動においてはふりかえりが十分にされていない部分も見られたので、目的を明確にし、どうだったのか振り返ることと次の活動につなげられるようにしたい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な学校生活と開かれた学校の創造               <ul style="list-style-type: none"> <li>【安全・安心部会】</li> <li>防災避難訓練の計画、実施、改善</li> <li>不審者対応訓練の計画、実施、改善</li> <li>防災マニュアルの作成、改善</li> <li>【情報部会】</li> <li>ホームページの更新、情報公開</li> <li>ICT環境の整備、改善</li> <li>放送機器の整備、改善</li> <li>GIGA委員会の運営</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【安全・安心部会】</li> <li>防災避難訓練の行い方を、授業中、授業時間外と状況を変えて実施した。それぞれ冷静に対応できるように事前指導を大切にしたい。</li> <li>不審者対応訓練については、「職員」と「児童」それぞれの対応の仕方を明確にし、訓練を行った。「職員」は初期対応とし、自他を守るための判断基準を確認した。「児童」は、集団で不審者の目に触れない、刺激しないための退避行動を訓練した。</li> <li>【情報部会】</li> <li>ホームページの更新をこまめに行い、学校での学習、生活の様子が伝わるように務めた。また、GIGA端末の連絡帳にリンクを準備することで、児童がアクセスしやすいようにした。</li> <li>ICT、放送機器の充実と整備によって、教育活動が円滑に進められるよう心がけた。</li> <li>GIGA端末をより充実した使い方ができるよう、児童の考えを大切にしながらルールを定めてきた。「自分たちのルールを自分たちで守っていく意識」を育むようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【安全・安心部会】</li> <li>決められた行動をとるに加え「自分の命を自分で守る行動をとる」ための考え方を伝えるようにする。状況に合わせた「判断」を大切に指導を続けていく。</li> <li>不審者が校内に入ってくる前の段階、不審者が児童と接触する前の段階で、危険回避ができる環境を整えるようにする。</li> <li>【情報部会】</li> <li>ホームページの情報をもとに、学校を身近に感じたり、家庭での話題になったりするよう、働きかけていくようにする。</li> <li>ルールを考える側の立場を児童が経験することで、久本小学校をつくるのは自分達だという意識が、様々な場面で感じられるように働きかけていくようにする。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ ・ 次年度へ向けて
<p>「学校生活は楽しいですか」という問いに対して約9割の児童・保護者が肯定的な回答をしており、今後も引き続き充実した授業や活動をしていくことが重要である。学校生活の楽しさと、「先生たちは話を聞いてくれたり、あなたのよいところや頑張っているところを認めてくれたりしていますか」等の質問事項は相関関係があると思うので、相関事項を分析してその点を取り組んでいくとよい。</p> <p>GIGA端末をどのクラスでも授業で当たり前のように使っているが、SNSやAIについて、情報リテラシー教育(情報モラル教育)をさらにしっかり行っていく必要がある。最新の技術とどう向き合っていくらよいか、保護者と学校と一緒に考えて行かなければならない。</p> <p>学校で起きる事故について、特に体育の器械運動でけがが起きやすい。現に事故が起こっており重傷となっている事例が見られる。児童の安全が第一であり、安全が保障されている状況の中で授業を行うことが大切である。そのためには、ヒヤリハットを教職員で確実に共有し引き継いでいくこと、教職員に対するアンテナの感度を高めること、危険が認知されたらその活動は行わないこと、を徹底していかなければならない。</p>	<p>4つの重点目標のもと、教職員がそれぞれの力を発揮し、学校運営に取り組んできた。</p> <p>授業においては、子供同士がかかわり合いながら学び、その中で「友達がいいたらこんな考えを持つことができた、こんなことができた」と実感できる授業を実践してきた。また、今年度は70周年事業もあつたことから、子供の主体的な活動も頻繁に見ることができた。授業を通して、また子供たちが主体的に考えて行う係活動や委員会活動、実行委員会活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高めてきた。次年度もさらに、かかわり合う授業や子供の主体性を活かした活動を行っていく。また、一人一人の学び方の違いにも着目した個別最適な学びを追求していく。</p> <p>児童間のトラブルがあつた際には、教職員がチームで対応し、丁寧に関き取りを行い、児童一人一人の気持ちに寄り添いながら次の行動と一緒に考えてきた。次年度も、迅速かつ適切に対応できるように、教職員の人権意識を高め、チームで対応していく。特にGIGA端末やスマートフォンにおけるSNSやAIのトラブルは喫緊の課題であり、情報リテラシー教育(情報モラル教育)を推進していく。</p> <p>授業の中で大きなけがをして、悲しい思いをしている児童や保護者がいることを、学校として重く受け止めている。学校生活は安全安心が土台でなければならず、安全な環境の中で子供たちが伸び伸びと活動できるようにすることは学校の責務である。体育を中心とする授業における学校事故を防いでいくために、学校内外の重大事故やヒヤリハットを教職員で確実に引き継いでいくこと、教職員間で授業中における危険に関しても確認し合っていくこと、今年度、体育専科教員を配置し、また跳び箱運動の初回学習時には高学年を中心に外部講師をお願いして、安全指導を重点化した。次年度も体育専科教員、外部講師の配置を行い安全指導を徹底していく。</p>